

2017年8月2～3日 第14回東アジア社会政策会議を開催しました

2017年8月2～3日に名古屋大学豊田講堂で、第14回東アジア社会政策会議（The 14th East Asian Social Policy Research Network Annual Conference、略称EASP）を開催しました。EASPは、東アジア地域全体の平和と安定に関わる各国の社会問題と社会政策について討議する国際学会です。東アジア諸国から英国への留学生を中心として2005年に設立されましたが、近年では東アジアにおける社会政策の主要な国際学会に発展しています。日本での開催は2007年の東京大学に続いて2回目です。今回は環境学研究科との共催ということで、「変わりゆく環境のなかの東アジア社会政策——比較・構想・未来」（East Asian Social Policy in a Changing Environment: Comparisons, Visions and Futures）を共通テーマに掲げました。基調講演の講演者と題目は以下の通りです。施世駿（国立台湾大学教授）「東アジアにおける福祉削減——国際比較から見た年金改革」、落合恵美子（京都大学教授）「変わりゆく欧亜のケアダイヤモンド——欧州のアジア化とアジアの欧州化?」、サラ・クック（ユニセフ・イノチェンティ研究所長）「持続可能な開発目標と子どもたち——東アジアの社会政策はグローバル目標をどこまで達成しているか?」、広井良典（京都大学教授）「持続可能な福祉社会の可能性——ポスト成長社会における社会政策と環境政策の統合」。いずれも東アジアの福祉の未来をマクロな観点から探索する新鮮な内容で、大きな反響を呼び起こしました。今回の会議には15か国から192名（うち国内からは67名）の参加があり、約110の研究発表が行なわれました。アトラクションとして、宝生流二十代宗家・宝生和英氏による能「杜若」の抜粋上演が行なわれ、参加者に深い感銘を与えました。
(環境学研究科准教授・上村泰裕)



